

祇園小学校 校長だより（第51号） 令和元年度第16号 令和元年11月15日

校訓 「高い理想 清い心 熱い想い」 文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

寛容の心

道徳の学習において、「寛容」は「相互理解」と共に内容項目にあげられ、高学年の内容には「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」とあります。大人も子どもも、異なる意見や立場を尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築いていきたいものです。

音楽の秋

10月28日（月）には、スクールコンサートとして5・6年生が三味線の演奏を聴き、10月31日（木）には、4年生が音楽発表会で歌声を披露し、11月9日（土）には、緑の少年団が校歌を披露し、11月21日（金）には、3年生が九州地区音楽研究大会において中・高校生に混じって西海賛歌を合唱します。まさに「音楽の秋」です。スポーツ、読書などを含め、子どもたちの成長を感じる秋です。

スマホや携帯電話によるトラブル

メールやLINEで悪口を書かれた、チェーンメールを送られた、個人情報や写真を無断で流された、迷惑メールを送られたりつきまとわれた、ネットで知り合った人に会った（会いそうになった）、LINEで仲間はずしにされた児童が市内にいます。

スマホや携帯電話を持たせる必要があるのか、持たせた場合、保護者の監視や管理は適切かなどをご確認いただき、子どもがトラブルにあわないようにご注意ください。

祇園歴史の旅（その51）「佐世保要塞」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

「軍港ができるとその防備のため、陸軍の砲台群が佐世保港を取り巻くように造られました。この砲台群は「佐世保要塞」と呼ばれ、1901年（明治34）頃までに、俵ヶ浦半島に3ヶ所、西彼杵半島の佐世保湾沿いに2ヶ所、そして日野町の牽牛崎と横尾町の前岳に、砲台や歩兵の砦がレンガとコンクリート、切石で大規模に建造されました。

要塞に関連して、大砲の操作、訓練を行う要塞砲兵連隊（後の佐世保重砲兵連隊）が、今の清水中学校のある場所に設立されました。清水中学校は戦後、重砲兵連隊の兵舎を校舎に利用して発足しました。また、要塞をまとめる要塞司令部が、今の体育文化館のある場所にありました。佐世保要塞は、上陸しようとする敵艦船を攻撃するための要塞でしたが、大正期になって日本海軍の戦力が充実したため、これらの砲台群は必要がなくなり、一部を残して廃止されました。造られてから100年以上にもなるこれらの砲台は、山林に埋もれて今も残っている近代の遺跡です。」

次回は、「鉄道開通」と題して、佐世保の鉄道事始めなどをご紹介します…。